

2016 年度「ネオニコチノイド系農薬に関する企画」 公募助成決定のお知らせ

一般社団法人アクト・ビヨンド・トラストが公募した「ネオニコチノイド系農薬に関する企画」について、計 3 件の企画が採択されました。選考委員についても併せてご紹介いたします。

2016 年度「ネオニコチノイド系農薬に関する企画」

助成公募選考委員（あいうえお順）

- 後藤和明（らでいっしゅぼーや農産部長、Radix の会常務理事）
- 田中 優（未来バンク事業組合理事長）
- 古瀬繁範（地球と未来の環境基金理事長）
- マエキタミヤコ（サステナ代表）
- 宮田秀明（摂南大学名誉教授／環境科学、食品衛生学、公衆衛生学）
- 安田節子（食政策センター ビジョン 21 主宰人）
- 山田敏郎（金沢大学名誉教授／化学工学、蜂群崩壊症候群研究）
- 星川 淳（アクト・ビヨンド・トラスト代表理事）

「ネオニコチノイド系農薬の生物への摂取経路と水環境リスクに関する研究及び啓発～金目川水系を例にして～」

松本 晃一 寺山隼人

助成金額：750,000 円 【調査・研究／広報・社会訴求部門】

本研究では、人間生活において身近になりつつあるネオニコチノイド系農薬が、どのような経路（土、空気、水）からヒトへの摂取リスクが存在するかについて、自然環境とヒトを繋ぐツールとして『水環境』を摂取経路例に考察するために、水質調査や魚、マウス、藻などや植物を使用し、ヒトへの摂取モデルの構築（水環境）を行う。

「国際会議”Post-Neonics, What Next?”の開催とライブ配信」

IUCN 浸透性殺虫剤タスクフォース（申請者：Maarten Bijleveld van Lexmond）

助成金額：750,000 円 【調査・研究／広報・社会訴求部門】

2016 年 6 月 18 日に東京でネオニコチノイド系殺虫剤に関する国際会議 “Post-Neonics, What Next?” を開催し、EU とアジアの学者が、アジアにおけるネオニコチノイド対策について意見交換を行います。同殺虫剤の特性と影響を表現したポスターを作って会場に掲示します。会場の様子を日本語同時通訳付きでライブ配信し、会議終了後ウェブアーカイブとして公開します。一般の傍聴も受け付けます。将来のグローバルなウェブ国際会議に向けた初の挑戦的な試みです。

「哺乳類末梢・中枢神経系におけるイミダクロプリドの神経毒性に関する薬理学的研究」

東北大学大学院薬学研究科薬理学分野 山國研究室（申請者：山國 徹）

助成金額：500,000 円 【調査・研究部門】

ネオニコチノイドは昆虫のニコチン性アセチルコリン受容体（nAChR）を標的とする害虫駆除剤として開発され、そのヒトへの安全性は昆虫 nAChR への高い作用選択性に依拠する。しかし、ヒトで頻脈、血圧上昇、嘔吐、けいれんなど有害事象が報告されている。本企画では、nAChR を発現する副腎髄質細胞、学習・記憶や意欲・運動始動と関連する脳神経細胞（海馬及び中脳）の培養系を用いて、代表的な住宅防蟻剤イミダクロプリドが nAChR を通してこれらの細胞の生理機能に与える影響を薬理学的に精査する。